

採石業の働き方

平成二十八年度の統計によると全国の建設業者は四六万八千社あまり、就業者数は四二九万人。一社あたり平均で十五人となる。一方トラック運送事業者は、六万二千社で就業者数は八三万人。一社あたり平均で十三・三人である。

そこで採石業に目を転じてみると、全国で千社あまり。一社あたり十五名が在職していると考えても全国で一萬五千人しかない。希少価値の高い仕事である。そんな小さな業界にも法律は平等であり、働き方を改革しなければならぬ。生産性を高め、残業を減らし、土日休み、有給休暇を取得し、賃金を上げる。数値目標はあるのだが、中身は自分たちで考えることになる。仕事量と価値(質)とコストを時間の皿の上に並べて現状の課題をつまびらかにすること、やるべきことが見えてくるはずだ。実現できるポテンシャルは十分ある業界だと思ふ。

社員一人一人が充実した人生を実感でき、夢と希望と誇りを持てる会社を目指していこう。



地球は狭い

新型コロナウイルスが世界に蔓延している。拡散のスピードにあらためて地球は狭くなったと感じる。田舎に住んで世の流行とはほぼ隔絶されていると思っていたのだが、社内でも海外旅行に行ってきましたとか、札幌雪祭りに行ってきましたという社員がいて、接点はあるのだと感じる。予防対策のためイベントの中止や学校の休校など、目に見えた動きが現れ始めている。日常の流れがどこかで遮断されると次々と影響が連鎖されていく。東日本大震災後、直接の被害はなくても、これからの日常はどうなっていくのだろうと漠然とした不安にかられたことを思い出す。それほど世界は有形、無形で太く、速くつながっている。できることは日常のあたりまえを継続していくことかもしれない。



畑山 博昭さん退社

24年間在職した畑山博昭さんが、家庭の事情等で退職することになりました。石材部のまとめ役として事業を牽引してくれました。次のステージでの活躍を祈ります。

編集後記

先日、凄いいまいに襲われ怖くなって病院へ行きました。まだ、これから検査なので理由はわかりませんが、元気が当たり前のようでしたが、改めて健康を考えて生活しないといけないのだなーと実感しました。



～こんなときもあるさ～

新型コロナウイルスによる事態で世界中で右往左往しておりますが、幸い日本ではまだ大々的な感染拡大とまではなっていないようです。しかし、韓国では3,000人、イタリアでは1,000人を超えるまで拡大しているとのこと。全国の学校一斉休校等、安倍総理や政府に対して様々な批判もあるわけですが、今は国民が一枚岩になってとにかく目の前のできることに努力し、しのぐしかないかと思ひます。

二戸では3月14日・15日に第21回イーハトーヴカーリングフェスティバルが予定されておりました。関東、東北、北海道方面から30チームが集い、シーズン最後のカーリング大会をみんなで楽しみにしていたのですが、残念ながらアイスリンクが3月1日をもって閉館することになり中止となりました。開催については、出来ないながらも小規模では考えていましたが、閉館では致し方ありません。というので今年のカーリングシーズンは突然終わってしまったです。

今はとにかく辛抱の時～こんな時もあるさ～(^-^;



～古くて新しい話～

石はいろいろな鉱物でできている。鉱物は長い間に熱や圧力や風化によって変成する。石は硬くて不変のものとは長い時間の中では言い切れない。

コンクリートも水と混和剤以外は石由来の材料でできている人工的な石である。強くて耐久性があり、安全なコンクリートを造るには「良質な材料」で「最適な配合」をし、「最良の施工」することが求められる。そうして造られた立派なコンクリートといえども、温度や湿度、酸やアルカリ、二酸化炭素、塩分など外部からの環境により劣化していく。材料(石)に起因する劣化としてアルカリ骨材反応がある。石の特定の鉱物とセメントのアルカリが反応して膨張する現象である。日本でも反応の程度や有害性を判定するための試験方法と対処の仕方が定められているが、すべてを合理的に判断できる標準とはなっていないと感じる。40年以上も前からの課題であるが、古くて新しい話なのである。



春が来るぞ～石材部

2月も終わりそろそろ雪も消え、お彼岸が来ます。さて、石材部もそろそろ活動を開始します。今年も墓誌の追加彫り、墓じまい、墓掃除等の何かお困りなことがございましたお手伝いさせていただきます。ご連絡お待ちしております！

(フリーダイヤル) 0120-148-290